

事業活動実績報告書

施 設 名	水元八千代幼稚園
教 育 理 念	義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児の健やかな成長のために環境を整え、心身の発達を助長する。

1 事業名	わくわくスピードチャレンジクラブ
2 実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日

3	取組概要	（取組日） 令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		毎週月曜日、期間中36回の実施。希望者のみのクラブ制。 ①ラダートレーニング：はしご型のトレーニング用具を使用した運動 ②マーカーの使用：地面に印をつけることでそれを起点にけんけんぱをしたり飛び越えたり変化の起点となる ③ミニコーンの使用：ミニコーンを目標にタッチしたり、コーンの周り回って折り返すなど動きに変化をつける。 ④ミニハードルの使用：ハードルをジャンプして飛び越える運動 ⑤じゃま鬼ごっこの要領で、行く手を遮る相手をかかわしてコースを走り抜ける運動 ⑥上記①～⑤を組み合わせ、様々な条件を付けて多様な動きを体験する。	
		（取組日） 令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 上記内容を 5/26・6/16・11/17・12/15・1/26・2/16・3/2に実施 時間を分けて、全園児が参加	
		（取組日） 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		（取組日） 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	

効果検証報告書（継続事業用）

施設名	水元八千代幼稚園				
教育理念	義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児の健やかな成長のために環境を整え、心身の発達を助長する。				

事業の区分（5領域）	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの（複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください）				
	健康 ◎	人間関係 ○	環境 ○	言葉	表現 ○
1 事業名	わくわくスピードチャレンジクラブ				
2 事業概要	スピードトレーニング専門講師による指導を通じて、楽しみながら体力向上、体幹強化だけでなく他者を思いやる気持ちや自ら考えて取り組む姿勢を養う				
3 対象学級（クラス名） 対象人数	全クラス（クラス名：3歳児・4歳児・5歳児）			117 名	
計画時	4 実施体制	取組に必要な環境（人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等）の保有状況			
	サッカー指導者およびスピードトレーニング教室を主宰している平沼恭史郎氏を講師として招く。 月曜日 年中・年長・小学生クラス				
事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等			
	（効果）講師の指導経験の積み重ねや人柄もあり、園児たちが運動だけではなく、講師との会話も楽しみにしているのがうかがえた。他者とのかわり方を学ぶ良い機会になったのではないかな。 （昨年度からの改善点）教職員の配置を工夫することにより、昨年度の改善点であった補助する者や子供たちを見守る者などの体制が整えられた。				
計画時	5 事業のねらい	運動の中に遊びを取り入れることで、楽しみながら多様な動きを経験し、また、自ら試行錯誤し、達成感とともに体を動かす楽しさを味わうことにより自らの体を大切にしようとする気持ちを育てる。			
	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等			
事業後	（効果）参加園児は、徐々に難しくなる動きに苦勞しながらも、できるようになるために積極的に練習していた。また相手の動きを予測して自分が動くという場面では、相手の立場に立って考える練習ができたのではないかな。				
	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 実施は月曜日、年間36回。（保育中は月に1回） ①ラダートレーニング：はしご型のトレーニング用具を地面に置くことによって、はしご型の内側に右足・左足・両足を踏み入れることができ、それらを組み合わせることで色々な動きができる。例：「右足・両足・左足・両足の順番という規則を子どもたちで作し、その規則通りに前に進む」 ②マーカーの使用：地面に印をつけることでそれを起点にけんけんぱをしたり飛び越えたり全身を思い切り使い体を動かす。 ③ミニコーンの使用：ミニコーンを目標にタッチしたり、コーンの周りを回って折り返すなど動きに変化をつける。 ④ミニハードルの使用：ハードルをジャンプして飛び越えることで、力いっぱい体を動かし、自身の身体を使う楽しさを味わう。フラフープなどの障害物を地面に置き、子どもたちが自由にコースを作る。 ⑤上記①～④を組み合わせ、様々な条件を付けて多様な動きを体験する。 それぞれのトレーニング用具を子ども達で観察し、数量・図形・素材などの特徴をみつけ、それを利用してどのような動きができるかを考えてオリジナルの動きを子どもたちが作り、実践していく。 上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点 ・講師の否定をしない指導方針により、自ら体を動かす事を肯定的にとらえ、意欲的な態度や活発な体の動きを身に付けていく。 ・うまくできなかった場合は自ら考え、行動に移すことで課題を乗り越える力を身につけていく。 ・うまくできた友達と喜びを共有し、また改善点を教えあったり意見交換をする事で、人間関係を深めていく。 ・また友達との交流の中で成功するイメージを言葉や動きにして伝えることで表現を豊かにする。 ・トレーニング用具の用途について考え、オリジナルの動きを作ることで、数量や図形に関する興味を引き出す。 （継続事業のみ記入）前年度の取組から発展させた点 前年度はトレーニング用具を講師から指示された用途で使用していたが、今年度は用具自体の形や素材を子どもたちとともに観察し、その用途を発想していく過程で表現力を豊かにし、また図形や数量への興味も引き出す。 上記において、用具それ自体の想定されている用途を逸脱しないように講師が監督する必要がある。また、危険な使い方の説明をし、怪我をする危険な行動を意識づけすることによって、日常的な事故の予防にもつながる。			

	事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 (効果) 昨年同様、今までに経験したことのない体の動かし方に戸惑いながらも、考えながら、なんとかやりきろうという努力が感じられた。また、用具を用いたオリジナルコースを園児たち自身に作らせることにより、図形や数量への興味も引き出した。 前年度から追加した動きとして「じゃま鬼ごっこの要領で、行く手を遮る相手をかわしてコースを走り抜ける運動」という、これまでは用具を使用しての運動だったが、コース上に「行く手を遮る役割の子ども」を配置し、その動きを予測しながらかわして走り抜けるという運動を新たに入れた。これにより「相手の動きを観察する力の向上」「先を読む力(予測力)の育成」「とっさの判断力・決断力の向上」「相手との距離感やタイミングを測る力の向上」が見込めた。 さらに昨年改善点であった、あきらめてしまう様子については、難易度を下げて運動させることにより成功体験を得てもらうように工夫した。
	計画時	7 環境構成例	園庭で行う。雨天時はホールで指導。 園庭では飛んだり跳ねたり走ったりと大きな動きが多くなるので、転んだ際の怪我防止のため、目立つ小石はあらかじめ排しておく。(園庭のメンテナンスを専門業者に委託する) 休憩時には速やかに水分補給ができるように、水筒の置き場所を確保しておく。 特に夏場は熱中症予防のため、水やタブレット、OS-1、体を涼しくするきりふきなどを準備しておく。 こまめに休憩ができるよう、適切に温度設定をした部屋を、教職員がととのえておく。
	事業後	7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 (効果) 広く見通しの良い園庭が当園の特徴の一つなので、それを有効活用できたこと。また怪我や熱中症対策をおこなっていたおかげで大きな問題もなく事業を終えられた。 昨年の改善点であった小石の除去等園庭のメンテナンスを本年度も行ったことも事故がなかったことの大きな要因だと考える。
	計画時	8 期待される効果児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 当園では「強く 明るく かしこい子」の育成を心がけています。 「6. 取組の内容」に記載の取り組みを通じて ①身体的な強さだけではなく、精神的な強さ(諦めない心・他者への思いやり)をもつこと。(強い子) ②達成感や自己肯定感を高めることによって明るく意欲的で豊かな表現を身につけること。(明るい子) ③自ら考え試行錯誤しながら課題の解決をめざす力を身につけること。(かしこい子)の3点を期待しています。
	事業後	8についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ①難しいと感じても挑戦をやめず、繰り返し挑む姿が見られた。これにより、身体的な強さだけでなく、困難に直面しても諦めない心や、相手の立場を考えながら関わる他者への思いやりの醸成につながっている。 ②ゴールできた経験により達成感を生み出した。成功体験の積み重ねにより自己肯定感が高まり、活動中の表情や声かけにも前向きで豊かな表現が見られるようになった。 ③状況を見通す力(予測力)や瞬時に判断する力が養われた。単に走るのではなく、「どうすれば通り抜けられるか」を考え、試行錯誤しながら課題解決を図る姿が見られた。
		9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 本年度も、参加園児に大きな事故や怪我がなく安全に実施できたことは、専門的知見を有する講師の指導と、事前の十分な安全配慮による成果であると考えている。 今年度は、従来の用具を活用した運動に加え、相手の動きを予測しながらかわす要素を取り入れることで、身体的な運動能力の向上にとどまらず、状況を見通し判断する力を育む内容へと発展させた。その結果、困難な場面でも諦めず挑戦する姿勢や、相手の立場を意識した関わり、仲間と相談しながら工夫する様子がより顕著に見られた。運動を通して「強く明るくかしこい子」を総合的に育む取り組みとして、一定の成果を得られたものと評価している。 今後も本事業を継続的に改善し、子どもたちの心身の健やかな成長と主体的な学びにつながる内容へと発展させていきたい。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。